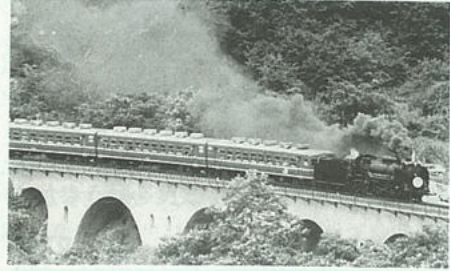


ロマンを乗せて… 銀河鉄道が走った



風に乗って「ポーッ」という鋭い汽笛の音が聞こえてくる。やがて、黒い煙を吐きながらブルーの客車6両を引っ張る蒸気機関車D51-498が姿を現す。

7月28日～30日に運行された「ロマン銀河鉄道SL'89」は、田瀬湖で行われた「森と湖に親しむ旬間」全国行事の一つとして企画された。宮沢賢治が「銀河鉄道の夜」の着想を得たといわれる釜石線にSLを走らせようというわけだ。

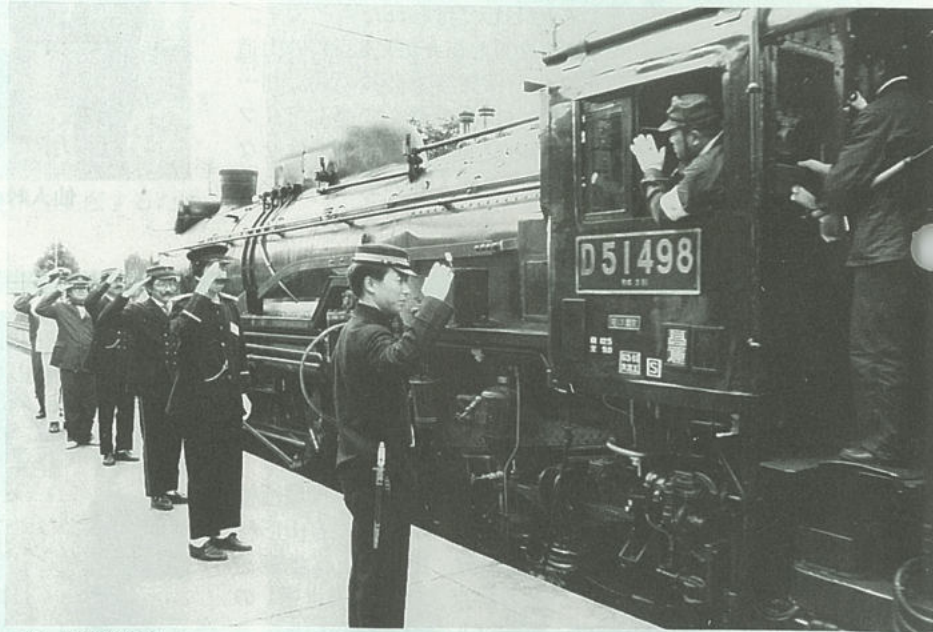
この企画に取り組んだのが「ロマン銀河鉄道実行委員会」。釜石線沿線市町村の青年会議所や商工会青年部の人たちで構成された、この委員会の中心的な存在となったのは遠野市のメンバー。というのも、昨年、ディーゼル機関車を使った同様の企画を手がけた実績があるためだ。

準備が本格化し始めた6月からは各委員が週に1度遠野市に集まり、乗車券の販売方法や沿線のイベントなどの検討を重ねた。だれもが仕事を持っているので、会が始まるのは夜7時過ぎ。話し合いが深夜まで続くことも。

運行ルートは花巻～遠野間。途中、土沢駅（東和町）と宮守駅（宮守村）にそれぞれ15分ほど停車、特産品の販売や郷土芸能の披露などが行われ、汽車の旅の思い出づくりに一役買った。

また、線路際には、SLの勇姿を撮影しようと全国から駆けつけたSLファンがカメラを構えた。

市町村の枠にとらわれず、「SLを走らせよう」というロマンを実現した青年たち。これからも、地域づくりの大きな力となるに違いない。



さあ、出発進行！



駅員も明治時代の服装でサービス



宮守駅では神楽で歓迎



沿線市町村から選ばれたミス銀河鉄道。記念テレホンカードの車内販売などでお手伝い



このイベントのきっかけともなった「森と湖に親しむ旬間」のコンサート会場には4,000人が集まった



よりのぶ
多田頼申さん 遠野市青年会議所 広報委員長

「釜石線にSLを走らせよう」という話が立ち上がったときは不安もありました。昨年、ディーゼル機関車を使ったときよりはるかに規模が大きかったからです。例えば、列車を借りるにしても、額が1ケタ違うわけです。でも、「いつかはSLを」と思っていましたのでとにかくやってみよう。

一番苦労したのは乗車券の販売でした。グループで乗りたいという人がまとまって座れるようにということで、座席の割り振りだけで3日もかかってしまいました。

今回は技術的な制約もあって遠野止まりでしたが、来年はぜひ釜石まで走らせたいと思っています。

また、乗りたい～乗客アンケートから

実際にこの列車に乗った人たちの満足度は？
実行委員会が乗客からとったアンケートでは、66歳の人が「次回も乗りたい」と答えており、「次回も乗るかも知れない」と答えた人22人とを合わせて考えると、ほとんどの人が満足していたといえよう。
また、このアンケートには、「素晴らしい企画です。良い思い出になった」、「沿線のイベントが良かった」といった声が寄せられた。一方、「車内放送を少なくして」、「乗車券の申し込み方法に工夫を」など、次回の参考となる意見も寄せられた。



遠野市の商工会館で行われた最終打ち合わせ。実際のスケジュールに沿って問題点を検討

釜石線にSLが走るのは22年ぶりのこと

